

【高等学校用】

令和5年度学校評価 結果

学校名	佐賀県立致遠館高等学校
-----	-------------

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

1 前年度 評価結果の概要	・学校教育目標に基づいた本年度の重点目標は概ね達成できたが、生徒の主体的な学習への取組や職員の働き方改革には課題が残った。 ・令和4年度からスタートした新学習指導要領が求める「主体的・対話的で深い学び」の実践へ向けて、さらに授業改善・指導力向上を図る。 ・第4期のSSH事業の2年目に当たり、これまでの取り組みを深化させ、探究活動（普通科）、課題研究活動（理数科）の充実を図る。
------------------	---

2 学校教育目標	未来社会の文化の創造と発展に力をつくす、豊かな人間性と進取の気性に富む若人を育てる。
----------	--

3 本年度の重点目標	①「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」いわゆる知・徳・体の調和のとれた人材の育成 ②「生きる力」つまり自分で考え適切に判断して行動できる力の醸成 ③生徒が主体的に設定した進路目標の実現 ④教職員にとって働きやすくてやりがいを感じる職場づくり
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目					
重点取組			最終評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果
●学力の向上	○自発的学習習慣の定着と宅習の充実	○進路希望の確定率90%以上 ○家庭学習時間3時間以上 ○3点固定(起床・就寝・学習開始時間)の確立	・目標設定に係るアンケートの実施 ・Classiで家庭学習時間を把握した適切な指導 ・学習指導をととして、予習→授業→復習のサイクルの確立	B	・学校評価アンケートで「家庭学習時間(日平均3h、週21h以上以上)を確保できている」と回答した生徒は、そう思う(27%)、ややそう思う(26%)であり、目標達成には至らなかった。 ・「学校は一人ひとりの生徒に応じた進路指導ができている」と回答した生徒は、そう思う(35%)、ややそう思う(47%)であった。概ね、3点固定及び予習→授業→復習のサイクルは確立しているが、まだ学習習慣が十分に身につけていない生徒もいる。今後も個々に応じた丁寧な指導を心がけていきたい。
	○基礎学力の向上と応用力の向上	○授業をととして学力が向上したと感じる生徒90%以上	・基礎学力の定着を図るため、小テストや定期考査に向けての計画的な学習指導の実施 ・授業アンケートで生徒の学習意識を把握・分析 ・展開授業や少人数授業で個々に応じた指導の充実 ・定期考査前学習会の実施	A	・学習状況調査で「授業を受けて、なるほど、わかった」と回答した生徒は、そう思う(52%)、ややそう思う(42%)であり、「学力(技能)を向上させた」と回答した生徒、そう思う(49%)、ややそう思う(42%)であった。どちらも目標の90%を超えており、授業改善および生徒の授業に対する意識の向上を図ることができた。 ・展開授業や少人数授業の実施に加え、3年生には個別指導の充実を図り希望進路や能力に応じた指導を行った。 ・定期考査前学習会を実施して学習意欲の喚起と計画的な学習への取組を促すことができた。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学年や個人でのボランティア活動への参加率100% ○図書室の貸出冊数を一人10冊以上	・読書啓発活動の実施 ・主権者教育講演会で、社会を構成する一員であるという意識の醸成 ・日々の交通指導、挨拶指導、清掃活動等で公共心を養う	A	・「ふるさと佐賀を誇り思い、佐賀に愛着を感じている」と回答した生徒76%。 ・図書室の貸出冊数は一人2.5冊であった。昨年度より微増した。 ・主権者教育講演会を通して、多様性を持つ地域社会の一員としての自覚をもち、社会の抱える課題に対応しようとする主権者としての姿勢を身に付けた。 ・朝の立ち番指導、挨拶指導、清掃活動などを通して、ルールやマナーに関する意識が高まった。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員95%以上 ○アンケートを活用し、いじめを許さない雰囲気づくりと意識の向上を図る	・いじめの認知・覚知に対する対応マニュアルの作成・見直し ・定期的ないじめアンケートの実施で実態把握と早期対応 ・問題発生時の敏速な対策委員会の開催及び組織的対応と関係機関との連携 ・全校集会やHR等で、いじめ防止の啓発活動の徹底	A	・今年度のいじめ認知件数は20件。未解消の事案もあり、いじめの実態把握や対応について継続して対応していく。 ・「いじめは絶対にしない・させない」という意識をもった行動ができている」と回答した生徒97%。 ・「先生はあなたのよいところを認めてくれると思う」と回答した生徒87%。 ・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒82% ・毎月教育相談部会で生徒の状況を共有し必要であればSCや病院、NPOなどの外部機関とも連携しチームとして組織的に対応することができた。 ・早期発見、早期対応に努めた結果、いじめ認知件数は18件と昨年度から微増したが、組織的に迅速に対応することができた。
	○人権・同和教育の推進	○人権・同和教育に対して主体的に理解しようとする生徒、教職員を100%とし、問題に対する意識向上を図る	・人権・同和教育に係るホームルーム活動を学年ごとにテーマを設定して実施 ・教職員及び生徒対象の人権・同和教育に係る講演会実施	A	・「人権が尊重され生活できている」と感じる生徒は95%。 ・「人権・同和教育に対して主体的に理解しようとしている」と回答した生徒93%、教職員98%。 ・生徒・教職員対象の人権・同和教育講演会を実施して社会にあるジェンダーギャップを認識し、多様な性に基づくパートナーシップについて理解を深めた。
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	○朝食喫食率を95%以上 ●「健康に良い食事をしている」生徒を95%以上 ○受験期における飲食物摂取の過多・過少に気を配り、自ら食生活を管理できる態度を養う	・保健だよりを活用して朝食の重要性の周知と生徒の意識の向上 ・個々の生徒について、職員間での情報交換と必要に応じた相談・支援の実施	A	・「毎日、朝食を摂っている」生徒は94%。 ・「健康に良い食事をしている」生徒は87%。 ・食育月間リーフレットを三者面談時に保護者に配布し、バランスよい食事を摂ることの大切さについて周知した。 ・個々の生徒について、職員間での情報交換を行い、必要に応じて生徒や保護者に対し相談・アドバイスを行うことができた。
	○部活動(社会体育を含む)や課外活動への意欲的な参加	○部活動(社会体育を含む)への加入率を90%以上 ○部活動計画に基づく休養日の実施率を100%	・部活動体験入部期間を設け、部活動加入の促進 ・ボランティア等の課外活動への参加推進 ・年間部活動計画を策定し、保護者や生徒へHP等を通じて周知 ・部活動休養日の計画的な設定	B	・年間を通した部活動(社会体育を含む)への加入率は87%。 ・部活動の休養日については、毎月調査を行い、部活動基本方針及び年間計画に基づく適切な休養日の取得促進を図ったが、公式戦及び上位大会等の日程上、一部適切に実施できなかった時期があった。 ・「部活動は計画的に休養日が設定される」と回答した生徒は91%であった。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する	・定時退勤日及び学校閉庁日の設定 ・業務記録を毎週確認して職員の時間外在校等時間の自己管理の徹底 ・会議や行事の縮減と業務の効率化 ・年間計画に基づいた部活動指導と適切な休養日設定	B	・時間外在校等時間は月平均で35時間18分で上限45時間を下回ったが、27%の職員が上限45時間を超過した。勤務時間上限の基準超過職員には毎月、産業医の面談を実施した。 ・年間を通して部活動の休養日の設定は年間計画に基づき適切に運用した。 ・出退勤管理システムによる時間外在校等時間の自己管理、週1回の定時退勤日、会議や行事の縮減と業務の効率化、適切な部活動休養日の設定等を促し、職員の意識を高めた。
	○教職員間の信頼・連携の強化と働きやすい職場づくり	○「働きやすい職場である」と考える職員を90%以上	・職員アンケート(年1回)の実施 ・月1回のゼロの日を設定し、教育公務員としての自覚の再確認 ・校内での職員の相談体制の周知徹底 ・衛生委員会の充実	A	・「働きやすい職場である」と回答した職員90%。 ・年度当初に職員の相談体制の周知を図り、ハラスメント研修を実施して職員からの相談に適宜対応できた。 ・月1回、ゼロの日を設定して教育公務員としての自覚を促すことができた。 ・衛生委員会を毎月開催して産業医の指導・助言を得ながら、働きやすい職場づくりについて情報交換を行った。
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目					
重点取組			最終評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果
○教育の質の向上	○主体的な学びを重視した授業の推進 ○ICT活用教育の推進 ○大学入試を見据えた指導の充実	○意欲的、主体的に生徒が取り組めるよう授業改善を進めた教員95%以上 ○ICT利活用教育に取り組んだ教員90%以上 ○大学入試を見据えた効果的な授業のあり方を各教科で研究協議し、指導力を高める	・毎月1回公開授業の実施で指導力の向上 ・ICTを活用した授業の実施 ・入試問題の分析に基づいた校内テストの作問 ・生徒による授業評価の結果に基づいた授業改善	A	・各教科で定期的に公開授業を実施し、指導力の向上を図った。また、生徒による授業評価の結果を全職員に配布して授業の改善を図った。 ・年度当初に各教科で大学入試分析を行い、それを踏まえて教材研究をして授業や考査作問などに生かした。 ・「意欲的、主体的に生徒が取り組めるよう授業改善を進めることができた」と回答した職員は92%、「ICT活用教育に取り組むことができた」と回答した職員は85%であり、ほぼ目標を達成することができた。 ・「ICTを活用して、自らの考えをまとめ発表をすることができる」と回答した生徒は84%、「ICTを活用して、知識・技能を深め、自らの資質向上に生かしている」と回答した生徒は83%であり、生徒のICTスキルの向上を図ることができた。
★◎志を高める教育	★SSH事業の活用 ◎主体的に行動する姿勢と自律心の養成	○自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合78%以上、教職員の割合85%以上 ○課題研究・探究活動で主体的に学んだ生徒を80%以上	・魅力ある教育プログラムとして、SSH事業を充実させ、内外へ発信 ・HP等を活用した、学校の魅力の積極的な発信 ・「試行錯誤から学ぶ力」や「協働的に取り組む姿勢」の育成指導法の開発	A	・事後アンケートの結果、「主体的に課題研究・探究活動に取り組むことができた」と回答した生徒は94%であった。また、「本校を中学生に勧めることができる」と回答した生徒は73%、職員も90%であった。 ・SSH事業で活動した経験を活かし、総合型選抜や学校推薦型選抜に挑戦した生徒が質・量ともに大幅に増加した。
★普通科教育の充実 ★理数科教育の充実	★国際的な視野と高いコミュニケーション能力の育成 ★科学技術の発展や情報化社会に寄与できる人材の育成	○自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合78%以上、教職員の割合85%以上にする ○英語の外部検定試験を受験する生徒100%、3年次の英検2級取得率80%以上 ○ICTを活用し、自らの考えをまとめ、プレゼンテーションできる生徒を100%	・学校パンフやHP等を活用した学校の魅力を積極的に発信 ・全職員の共通理解のもと、主体的な学びや学問の深さについて啓発 ・普通科1年生と2年生で探究活動発表会の実施 ・理数科2年生で課題研究で中間発表会及び発表会の実施	A	・学校パンフレットの構成を工夫して県内中学校へ配付する中学校へ直接出向いての学校説明、オンデマンドによる説明会など、積極的に学校の魅力発信に努めた。 ・全学年全員がGTECを受検した。また、英検は希望者のみであるが、多くの生徒が積極的に受検した。 ・普通科は青峰探究、理数科は青鵲課題研究で、自らの研究をまとめ、プレゼン資料を作成した。理数科2年生は11月、普通科2年生は12月に発表会を実施した。
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり(高等学校のみ)					

5 総合評価・次年度への展望	・学校教育目標に基づいた本年度の重点目標は概ね達成できたが、生徒の主体的な学習への取組や職員の働き方改革には課題が残った。 ・本年度高1からスタートした新学習指導要領が求める「主体的・対話的で深い学び」の実践へ向けて、授業改善・指導力向上を図る。 ・次年度第4期のSSH事業の3年目に当たり、これまでの取組をさらに深化させ、探求活動(普通科)、課題研究活動(理数科)の充実を図る。 ・本年度策定した「目指す学校像(スクール・ミッション)」に基づいて、魅力ある学校づくりを推進する。
----------------	---